

彼理日本紀行

第三十三卷
全拾壹本

洋学文庫
文庫8
C 235
10

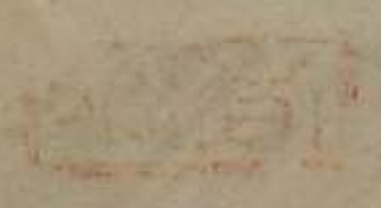


彼理日本紀行

卷二十三

彼理日本紀行卷之二十三

手塚宗成





彼理日本紀行卷之二十三

手塚律藏 譯



彼理箱館ニ到着ノ莫荒ニ箱館ノ形勢及
 風俗ノ莫
 去ル程ニ提督彼理下田ヨリ箱館ニ赴キテ其港
 内ニ破船所ヲ定メシカハ忽日本ノ官船其舳ニ
 黒線ヲ画ケル旗ヲ翻シテ提督ノ船ニ近ク漕来
 レリ此船ハ他所ニテ見レ日本船ニ異ナラスト
 雖トモ其製造較粗末ナリ此船中ニハ水夫等凡
 八人乗組ミテ此者共ハ黒青或ハ白色ノ衣ヲ着



シ且其衣上ニハ各々其附属セル官人等ノ紋取
ヲ画キタリ扱此官船我カホーハタン船ノ前ニ
至リテ日本ノ官吏我カ船中ニ乘リ移リケレハ
亞人コレニ應接シテ此度提督ノ持参セル日本
高官人ノ書簡ト共ニ支那文ニテ書セル條約書
ノ寫シヲ取出シテ典ヘタリケレハ此時日本ノ
官吏亞人ニ謂テ曰ク應接スヘキ高官人ハ未江
戸ヨリ此地ニ到着セス且又我等未日本ニ於テ
貴國ト和ヲ結ヒテ下田ヲ開キケルヲ知ラス其
上貴國ノ軍船此地ニ来泊スルノ前ニ其莫ヲ我

カ方ニ告ケスレテ不意ニ此港ニ来泊セル故ニ
居民等貴船ノ帆樫ヲ見テ其驚駭実ニ大方ナラ
スト此時亞人日本官吏ニ告ケテ明日ハ我カ提
督ヨリ箱館官吏ト應接ヲナサン為ニ我カ官人
兩三輩ヲ其地ニ上陸セシムヘシト又提督既ニ
此港ニ碇泊シケレハ下田港ヲ測量セシ如ク此
港内ヲ測量セントテ其用意ヲナシ是ヨリ亞船
滞苗ノ間ハ絶ヘス港内ヲ搜索シテ悉ク其浅深
等ヲ窮メタリ此翌五月十八日ニナリケレハ日
本人ニ約シ置タル如ク箱館官吏ト應接ヲナサ

ンカ為ニ通辨官ウイルレムポルトメレ及ヒ書
記官等上陸シテ箱館ノ官舎ニ至リケレハ官吏
遠藤松左工門其属官井須賀權藏工藤茂五郎ノ
兩輩ヲ携ヘテ出来リ五人ニ通例ノ挨拶ヲナシ
五人ヲ請シテコレヲ羨室ニ導キ應接ノ用意ヲ
ナセリ此遠藤ハ中年ノ者ニシテ人品モ随分宜
シク諸吏甚可憐ナル人ナリ又其余ノ官吏等ハ
其官長ノ前ニ居テハ大ニ謙遜シ居ルト雖氏是
又随分賤シカラサル者ナリ叔應接ノ席ハ廣ク
シテ疊ヲ布キ其諸方ニ窓ヲ開キタリ此窓ハ日

光ノ明ヲ室内ニ通セシカ為ナリ又此席ニハ六
脚ノ椅子ヲ居ヘ置キ又此室ノ隅ハ佛像ヲ置キ
テ佛教崇奉ノ證ヲ顯ハセルニ似タリ斯クテ日
本ノ下吏等茶菓及ヒ煙草煙管杯ヲ此席ニ持來
リケレハ箱館官吏等五人ニ菓子杯ヲ薦メテ大
ニ親懇ニ取扱ヒタリ斯クテ兩國人應接及ヒケ
レハ五人日本ノ官吏ニ謂テ曰ク此度五人船艦
ヲ引テ此地ニ渡來セル主意ハ余ノ義ニアラス
去ル三月二十一日ニ横濱ニ於テ日本人ト和親
ノ條約ヲ取結ヒタル故ニ是ヨリ諸吏條約ノ通

リ取計ヲハン為ナリ然ル間向後ハ箱館ニテモ
諸莫宜シク下田ノ如ク商人ノ自由ヲ得セシメ
商人ノ勝手ニ箱館ノ市中ヲ徘徊シ且人家杯出
入スルヲ許シ商人必用ノ物品ヲ買フ莫ヲ許ス
ヘシ又船中入用ノ諸物ヲモ買ヒ調度必用ノ物
品ノミナラス蝦夷地ノ産物及ヒ珍奇ノ諸品等
ヲ買フ莫ヲ許サルヘシ尤諸品物ヲ買フ時ニハ
通例ノ定價ヲ以テ其金錢ヲ納ムヘシ又官舎ナ
リトモ寺院ナリトモ提督將官及ヒ其下輩等上
陸ノ為ニ三ヶ所ノ旅宿ヲ定メラルヘシト是ニ

於テ箱館ノ官吏答ヘテ曰ク貴國所願ノ旨委細
兼知セリ然レトモ貴國人ニ應對シテ諸莫ヲ決
定スヘキ官人ハ未江戸府ヨリ此地ニ到着セス
此地ハ邊土ニシテ遙カニ都府ニ隔絶シ江戸府
ヨリ此地ニ至ランニハ其道程甚長遠ニシテ夏
日ハ三十日許冬時ハ三十七日許ヲ経テ到達ス
ルヲ得ルナリ故ニ暫時ノ間ハ其方ノ所願ヲ聞
届クルヲ能ハス然レハ我等ノミノ議論ヲ以テ
何莫ヲモ取計ラフヲ能ハスト雖トモ此度提
督公ノ持参セル江戸官人ノ書状アレハ其書中

ニ言ヒ采レル莫件ヲハ我等コレヲ奉行シテ以
テ其方ノ莫ニ便スヘシ此書ヲ披見セルニ書中
ニハ此度西船ヲ箱館港ニ送ルノ間コレニ薪水
食料ヲ給シテ随分宜シク町寧ニコレヲ取扱フ
ヘキ者ナリトノ莫ヲ書キ載タリ故ニ其船中新
水等ノ乏缺アラハ速カニ是ヲ申越サルヘシ此
書中ニ云ヘル数條ノ莫ノ如キハ我等貴國人ノ
用ヲ辨スヘシト此時西人ノ曰ク然ラハ其趣ヲ
委細紙上ニ筆シテ以テ我カ方ヘ送ラルヘシ然
ル時ハ我カ提督モ其趣ニ付キテ何カ又勘考ノ

次第モアルヘシト是ニ於テ其翌日箱館官吏ノ
方ヨリ存念ヲ書記セル一通ノ紙面ヲ我方ヘ送
レリコレヲ見スルニ其文ニ曰ク

箱館ノ地ハ日本島ト隔絶シテ境土偏僻ニ人
情固陋ナリ此度貴國ノ船舶此地ニ渡来セル
ヲ見テ居民等皆外國人ヲ疑ヒラソレ海濱ノ
居処ヲ立迹キテ深ク内地ニ避ケントレ官吏
ヲ以テコレヲ制スルト雖トモ幾ト過ムル莫
能ハス扱貴國ノ船舶此港ニ渡来セル主意ヲ
案スルニ必日本政府ニテ未悉ク許容セサル

夏件ヲ云々出シテ其方ノ勝手ニ夏ヲ謀ラン
為ナルヘシ元来此地ハ一箇ノ孤島ニシテ土
人等外國人ノ交通ヲ欲セス此度土人等貴國
人ヲ疑ヒテソレテ頻リニ拒守ノ説ヲ唱ヘ我
等嚴シクコレヲ制シテ僅ニ其説ヲ取り沈メ
昨日貴國人ヲシテ上陸セシムルノ段ニ至ル
夏ヲ得タルナリ貴國人昨日上陸ノ時ニ定メ
テ詳カニ土人等ノ風情ヲ見タルヘシ貴國人
等上陸シテ市中ヲ通行セシヲ以テ居民等皆
其業ヲ務ムルヲ止メ貴國人等ヲ疑ヒ畏レテ

人々自守衛スルノ備ヲナセリ然レトモ幸ニ
シテ貴國人等帰船ノ時ニ至ルマテ兩國人等
闘ノ夏モ無カリシナリ又箱館ハ小邑ニシテ
且近邊ニ富饒ノ地ナシ諸々ノ物品ハ多クコ
レヲ遠境ニ取レリ故ニ下田浦賀ノ諸港ト違
ヒテ所在ノ物品未悉ク諸用ニ充ル丁能ハス
此地出産物ハ其品類唯干魚々油塩鮭錫昆布
鮭ノ子鹿ノ皮ノ如キノミ故ニ今貴國人此地
ニ来リテ食料等ノ物品ヲ求ムルトモ土産ノ
物品此數類ニ限レリ此品物必貴國人ノ望ム

所ニ非サルヘシ抑貴國ノ船舶他ノ港内ニ碇
居ノ時ハ如何ナル物品ヲ以テ食用ニ充テル
カ箱館ノ物品ハ定メテ下田浦賀杯ノ産物ニ
比スル丁ノ得サルヘシ又昨日其方ヨリ兩國
人相互ニ懇切ノ交ヲナサントノ事ヲ申シ越
サレタリ是ハ誠ニ苦シカラサル丁ナリ又亞人
上陸ノ為ニ三箇所ノ宿寺ヲ定メシトハ實ニ
我等ニ於テ甚困難ノ事ナリ元来我等ハ此土
人ヲ支配シテコレヲ治メンカ為ニ此地ニ置
カルト雖トモ威權輕クシテ自在ニコレヲ

制置スル事能ハス故ニ亞人ノ為ニ宿寺ヲ定
メント欲スレトモ人情未服セズ又宿寺ヲ定
メント丁ノ事ハ其方ニテ懇切ナル交情ヲ以テ
コレヲ申シ越サル者ナルナリ又昨日其方
ヨリ去ル三月三十一日横濱ニ於テ日本人ト
和親ノ條約ヲ結ビタルノ間諸事條約ノ通り
ニ取計ラハン為ニ此港ニ渡来セル由先ニ三
箇所ノ旅館ヲ定メ其中ニ休舎シテ以テ箱館
ノ市街形勢等ノ繪圖ヲ作ラント丁ヲ申シ
越サレタリ又三月三十一日横濱ニ於テ貴國

人日本高官人ト和親ノ條約ヲ取結ヒテ箱館
開港ノ評議モ定マリタル丁ナラハ其段早速
江戸表ヨリ此地ニ告命モアルヘキ未其莫モ
ナク又此度提督公ノ持参セル江戸府ノ書簡
中ニ亞人ノ旅宿ヲ定メヨトノ丁ハ一句モ十
レ是實ニ疑ヒ恠ムヘキノ至リナリ又我等莫
ヲ所置スルニハ必江戸府ノ可否ヲ受ケテ而
後ニ其命ヲ奉行スルナリ然レハ我等今莫ヲ
定メシト欲スル時ハ先コレヲ土君ニ告ケ土
君ヨリコレヲ江戸府ニ奏シ而後ニ其莫ヲ決

スルヲ得ルナレハ其莫決着ヲ得ルノ間ハ幾
何ノ時日ヲ費寸シモ未知ルヘカラス官吏等
ノ取計ヲヒテ以テ何莫ヲ決ス能ハサルハ是
實ニ日本ノ風習ナリ貴國人横濱及下田ニ
於テ日本人ニ交接シテ此風習ヲ知ラサルヤ
又此等ニテ何莫ヲモ決スル丁能ハサレトモ
其方ニテ諸食品ヲ買ヒ調ヘントスルナラハ
鶏卵魚肉等市中ニ在リ是等ノ物品ノ如キハ
其方ニテコレヲ買ハン丁差シテ苦レカルヘ
カラスト

此時此書面ヲ受取りタル亞國ノ將官日本人ニ
謂テ曰ク余ノ莫ハ免モアレ宿寺ヲ定メラレン
莫ハ我カ提督モ甚コレヲ促シ居レリ何トソ其
方ニテ速カニ此議ヲ定メ給ハルヘシ且我等寺
院ニ止宿セシ時ハ諸莫決シテ寺内ノ法則ニ從
フ莫ナリ其内ニ於テ我等自由ニ起居徘徊スル
莫ヲ得ント欲スルナリ是ニ於テ箱館官吏コレ
ヲ聞テ亞人佛教ヲ妨ケンカ為ニ欺カルヲ云
ヒ出セルト思ヒタルト見ヘ大ニ心配セリ其ヨ
リ箱館官吏亞人ニ向ヒ明日ハ我土君ノ公族松

前勘解由提督ニ相見セント欲シ居タルノ間何
モ其刺ニ評議スヘシト云ヒケレハ是ニテ今日
兩國ノ會話ハ止ミケリ提督ト勘解由トノ應
接ハ委レクハ後卷ニ在リ其後日々亞人上陸シ
テ勝手ニ市中ヲ徘徊シ且寺舎等ニ出入セリ又
數度兩國人會議ノ後ニ遂ニ亞人ノ為ニ三ヶ所
ノ旅宿ヲ陸上ニ定メ而シテ此三館ノ一ハ提督
ノ旅宿ト定メ一ヲハ諸將官ノ止宿トシ又一
ヲハ亞人ノ商館ト定メタリ又亞人市中ニ於テ
入用ノ物品ヲ買フ莫モ許容セラレ其物價ハ亞

國ノ金貨「ドル」ヲ以テコレヲ償フヘシト定
メ又此一「ドル」ハ日本一分銀ニ通用シテ
銅錢四貫八百文ニ用ユル莫ニ定マレリ斯クテ
亞人モ追々ニ箱館ノ人民等ニ交通スルヲ得
タレトモ公然トシテ深ク交ハルヲ得ハ唯官
吏輩ナリトス箱館邑ハ蝦夷島ノ南岸ニシテ北
線四十一度四十九分二十二秒東經百四十度四
十七分四十五秒ノ間ニアリ一大崎ノ西岸ニシ
テ其一方ハ港灣ナリ扱此箱館トイヘル文字ヲ
我國語ニテ翻譯スレハ箱館ノ館舎ト云ヘル莫

ナリ然レトモ此地ニ如何ナル由アリテコレヲ
箱館ト名ツケタルニヤ此莫ヲ土人等ニ尋ヌレ
トモ土人等モ其名号ノ由縁ヲハ知ラサリケリ
上人等ニテモ此莫ハ知ラサル所ナレハマシテ
我等其名号ノ原因ヲハ得テ推察スルヲ能ハサ
ルナリ又箱館ノ港口ハ其風景殊ニ羨ニシテ眺
望ニ宜シク又箱館ノ邑ハ高陵ノ根ニアリ又此
高陵ノ頂ハ三箇ニ分レ居テ其高サハ何レモ六
百「フット」千「フット」ニ至レリ而シテ其頂上ハ皆
禿頭ニシテ常ニ白雪ヲ蒙ムレリ又此高陵ノ中

程ニハ短小ノ樹木稍相連リ又其麓ニハ樹木林
列シテ景光蔚鬱タリ然レハ此辺ニハ唯樹木ノ
林列セルノミニシテ草園田畝ヲ見ス是其他ノ
沃土ニ非サルヲ知ルニ足レリ又箱館邑ハ人家
千戸斗ニシテ前ハ海岸ニ沈ミ後ハ高陵ニ踞シ
中ニ兩三條ノ街路ヲ閑キテ其通線海岸ト並行
セリ又我カ船中ニ在リケルギブラルタルノ形
勢ヲ知レル人等皆箱館ノ形勢ヲ見テギブラル
タルノ形勢ニ等シキ由ラ云ヘリ而シテ先箱館
ノ人家丘陵ノ上ニ踞シテ其形勢ハギブラルタ

ルノ人家ノ岩石ノ上ニ在ルニ似タリ又箱館ノ
半島千島トハ其周囲ヲ水ヲ帯ヒテ唯一ノ陸
方ノ陸地ニ接スル物ヲ云フナリ地ニ連接セル平低ノ小地峽ハギブラルタルノ
近傍ナル班牙イヌバヤ所領ノ地ト英吉利ノ堡墻トノ分
畧ニ似タリ又箱館邑ニ對セル陸地海岸ノ形勢
ハ左右相救フノ勢アリテギブラルタルノ堅固
ナル形勢ニ似タリトス又箱館ヨリサンカル海
峽ヲ見渡シテ其南方ノ對岸ナルミンマカ及ヒ
カイ等ヲ眺望スル莫ハギブラルタルノ地ヨリ
地中海ト亞太臘海トノ間ナル海峡ヲ見渡シテ

亞弗利加ノ海岸ナルタンギール及ヒセウタラ
眺望スルカ如シ此景況ヲ以テ考フルニ箱館ノ
形勢ハ誠ニギブラルタルト異ナル莫ナシト云
ヘリ又箱館ノ地ハ松前ノ所領ニシテ蝦夷島ノ
一大邑ナリ而シテ此地ハ松前ノ東ヲ去ル丁三
十里許ニ在リ此兩邑其舟路ノ遠カラサルヲ以
テ舟船商舶常ニ相往來シ又日本島ノ北岸ナル
津輕杯ノ諸地ニ交接シテ以テ商路ヲ通シ貿易
實ニ盛ナリ又箱館邑ハ街衢ノ通線人家ノ位列
甚精整ニシテ錯繆アル丁ナク街道ノ廣サハ三

十フットヨリ四十フットニ至ル又其街道ノ上
ニハ沙石込敷キテ雨水ノ乾燥ニ便シ又其兩側
ニ小溝ヲ穿テ屋上ノ雨滴ヲ受ケ且ハ街道ノ穢
物ヲ浮ヘテコレヲ流去スルニ供セリ又街道ノ
兩側ニハ多ク石ヲ敷キタリ而シテ又市街ノ中
ニ絶テ車ニ乘リテ往來スルモノヲ見タル丁ナ
シ人市街ノ造営雨水穢跡等ヲ去ルニ便ニシテ
人身ノ健康ヲ養フニ宜シトス又箱館ノ市中ニ
モ日本諸邑ノ如ク一ノ市政アリテ町長其町人
ヲ支配シ諸吏ヲ裁断シテ市政ヲ治ム又此町長

ヲ箱館ニテハコレヲトナト唱フ又閭里コト
ニ里門ヲ置キ昼間ハコレヲ閑キテ道路ノ往來
ヲ通シ夜分ハコレヲ閑キテ以テ暴客ニ備フ又
此外市中ニ番舎ヲ設ケ守者ヲ置キ若市中火災
騷動異變アル時ハ此守者忽鐘ヲ鳴ラシテ其吏
ヲ告クルナリ又箱館ノ市中ハ其港内ニ諸船ノ
入津シテ大ニ互市等ヲ行フ時ニ非サレハ實ニ
閑靜ナル市中ナリ又車輪ヲ以テ諸物ヲ運轉ス
ルナケレハ市中又一段ノ閑寂ヲ添フルナリ
唯此閑中ニ耳ニ立テ騷カシキ者ハ下賤ノ者共

牛馬ヲ引キ諸物ヲ載セテ市中ヲ往來シ或ハ大声
ヲ以テ其牛馬ヲ叱シ或ハ高音ヲ以テ土声ノ哥
謡ヲ歌ヒ其喧シキ莫是實ニ閑中ノ一騷客ナリ
又官人ノ往來スル時ニハ官人ノ僕從等其主人
ノ前ニ立チ來リ市中ノ者共ヲ叱シコレヲシテ
低頭平身シテ礼敬ヲ其官人ニ致サシムルナリ
リ是モ又騷々シキ莫一ナリトス又此外ニ市
中ノ鉄工其鉄器ヲ製造スルモ亦稍騷々シキナ
ナリ○又箱館ノ市中ニハ牛馬ノ轉輸往來相望
ニ其港内ニ船舶ノ會集帆檣連接シ又士人ヲ羨

服シテ市街ヲ徘徊スルモノモアリ富貴ノ人ノ
騎馬ニテ往来スルモアリ是等ノ景況ヲ以テ考
フルニ箱館ハ実ニ一良邑ナリト見ユ又其人
ノ造作ハ多ク一畧ニシテ二階ナシ或ハ二階
アルモアレトモ大抵其二階ヲハ家人ノ居
処トセ
ス或ハ此処ニ平日不用ノ器物ヲ置クモ
アリ或
ハ又家僕等ノ卧処トスルモアリ又稀ニ
ハ家人
ノコレニ坐卧スルモアルナリ家屋ハ皆
三角形
ニシテ其高低ハ同シカラス高キハ地
上ヨリコ
レヲ計リテ二十五フ^ト余ナル者アリ又
人家

ノ前面ニハ多ク庇ヲカケ其庇ノ屋上ハ
或ハ薄
小ノ板ヲ布キテコレヲ竹制ノ釘ニテ固ク
附着
セルモアリ又ハ小圓石ヲ其上ニ布列シ
テ其薄
小板ヲ保テルモアリ元来コノ小圓石ヲ
屋上ニ
布列セルハ其重力ヲ以テ薄小板ヲ鎮シ
コレヲ
シテ散乱セシメサルカ為ナレトモ亦箱
館ハ寒
土ニシテ冬日ニ至リテハ大ニ雪フル故
ニ此石
片ヲ屋上ニ置キテ其上ニ積レル雪ノ消
ユルヲ
促サンカ為ニモ用ユルナリ又此庇ハ和
蘭ノ人
家ノ風ノ如ク斜ニコレヲ架シテ以テ戸
内ヲ掩

フニ供セリ又人家ノ屋上ニ藁ヲ以テ巻キ固モ
タル烟筒ノ如キ者ヲ見タリ我等コレヲ見テ初
メノ程ハ是必竈炉ニ供セル烟筒ナラントラモ
ヒレニ能クコレヲ吟味シタレハ全ク以テ左ニ
非ス出火ノ異変ニ備ヘタル用心水ヲ入レタル
桶ニシテ若出火アル時ハ其桶中ニアル箒ヲ以
テ其水ヲ屋上ニ灌クナリ又藁ヲ以テコレヲ巻
キタレハ其桶ノ暗雨ニ暴露シテ竹輪ノ不意ニ
破裂シテ桶身ヲ脱スルナリトニ備ヘタルナリ
又土人等ハ大ニ出火ノ莫ヲ恐レコレヲ預防ス

ルノ用意ヲナシテ至ラサル所ナレ屋上ニ用心
水ヲ置ケルノミナラテ亦家宅ノ前ナル地上ニ
モ水ヲ入レタル大桶ヲ置テ以テ火ヲ防クニ備
ヘタリ又市街ノ隅角コトニ番舎ヲ設ケテ其舎
ニ厚キ木板ヲ釣リ置キ市中ニ出火アル時ハ其
守者速カニ其木板ヲ繫テ出火ノアル莫ヲ市中
ニ布告スルナリ又此等市中ヲ徘徊シテ処々ヲ
見物セシニ市中ノ一方ニ凡百戸許ナル新造ノ
人家アリテ是ハ今ヨリ兩三月已前ニ造営セル
家宅ト見ユ且此辺ニ人家焼失ノ残物ト見ヘテ

瓦石ノ燒ケタル者ヲ積ミ置ケルモアリ其外灰
燼ノ餘物種々見ヘタリ然レハ是ヨリ先キ此市
中ニ大火アリテ人家大ニ燒失セルトアリシ故
ニ此辺ノ住人等皆新ニ此居宅ヲ營ミタルト
見ヘタリ繁スルニ右等ノ処ヨリ市中ニテ只今
此ノ如ク出火ヲ畏レテ嚴シク其用心ヲナセル
者ナラン○又家屋ノ大商富族ノ家屋皆瓦屋ナレ
トモ小民貧者ニ至リテハ皆草屋ナリ而シテ此
草屋ノ上ニハ五穀ノ草種一兩莖ノ生シ居ル者
アリ此草莖ノ種ハ此屋上ニ翫飛セル鳥杯ノ穀

類ヲ含ミ来リテコレヲ落セルナルヘシ又人家
ノ諸面ハ多ク松板ヲ以テ作レル戸ヲ國ノ中ニ
立テコレヲ閑閉シ夜ハコレヲ掩フテ昼ハコレ
ヲ開キ紙製ノ障子ヲ以テ其板戸ニカヘテ日光
ヲ室内ニ通スルナリ又上ヲハ屋ヲ以テコレヲ
覆ヒテ下ハ土間ナル処アリ此ノ如キ処ニハ家
人等コレニ起居スル莫ナリ唯諸道具等ヲ入レ
置ニ供スルナリ又人家造作ノ木材ニ油漆ヲ塗
ラステコレヲ用ユル故ニ其木材軟弱ニレテ
数年ノ用ニ堪ユル莫能ハサルナリ箱館ノ冬日

ノ氣候ニハ殊ニ此木材其空氣ニ觸レテ衰弱ス
ルコト甚シトス又箱館ニテ家宅ヲ作ルニハ先
其地秋ヲ平均シテ其上ニ柱礎ヲ置キ地上ヲ去
ル度ニフ¹ト許ノ処ニ板敷ヲ附ケテ家人其上
ニ坐卧セリ又家宅ノ前面及⁷其左右ノ内一方
ニ狭キ土間ノ場所ノ設ケ商店ハコレヲ開キ少
シモ閉塞スル度ナク室房ハ竹簾等ヲ下シテ外
面ノ人目ヲ防キタリ又戸上ニハ佛神ノ守札ヲ
張りテ家内安全火難消除等ノ度ヲ求ム此守札
ナル者ハ或ハ神像ヲ画キ或ハ文字ヲ書キタル

者モアルナリ又板敷ノ上ニハ畳ニト云ヘル物
ヲ敷キタリ此敷物ハ草茎ヲ以テ巧ニ織タル
物ニテ藁ヲ以テ組立タル物ヲ覆⁷又布帛ヲ以
テ其線ヲ包ミタルナリ而シテ此敷物ノ尺度ハ
日本総國ノ通制ト見ヘテ其一枚ハ幅三¹フ¹ト
ニ長六¹フ¹トナリ而シテ此敷物ヲ幾枚モ連接
シテ敷キタルニ附接ノ間空隙ヲ生セス厚薄ノ
異同其高低ヲナス度ナク卒然トシテコレヲ望
メハ恰モ一枚ノ廣席ヲ展ヘタルカ如シ叔家人
等此敷物ノ上ニ居テ昼ハ商業ヲ務メ賓客ニ接

レ飲食ヲナレ夜ハ此上ニ又一枚ノ寢席ヲ展ヘ
木枕ヲ置キテコレニ卧スナリ又家屋ノ内ハ其
又飾随分華麗ニシテ紙窓ヲ設ケテ日光ヲ此中
ニ通セリ又上等ノ人家ニ至リテハ其細工ハ甚
精整ナリト云フニアラサレトモ種々ノ雕物ナ
トヲ以テ其室内ヲ飾リ又室房ヲ區別スル禰及
レ屏風ノ類ニハ地回山水或ハ鳥類ノ画ヲ張り
附ケテ之ヲ文サレリ又室内ノ壁上ニハ一幅ノ
懸物ヲ掛ケ置クナリ此懸物ニハ龜雀ノ類或ハ
鯉魚等ヲ画ケリ総レテ此ノ如キ懸物ナト有ル

家宅ハ富豪ノ居宅ナリト知テヨシ又土人ノ家
敗諸具ハ総テ清潔ナラス古器ヲ用ヒテ旧物ヲ
棄去ラス然レトモ飲食ノ諸器盃盤等ニ至リテ
ハ度々コレヲ破碎セル故ニヤ同々新調ノ物コ
レアルニ似タリ又坐上ノ敷物ナトモ垢ツキ破
ル、時ハコレヲ去テ新キヲ布クナリ又日本ノ
風習ハ平日踞立スル莫ナクシテ安坐スルナリ
故ニ人家ニハ椅子ヲ置カサルナリ又莫ニヨリ
テ踞立スル莫モアリト虫トモ是ハ甚稀ナリト
ス若踞立スル莫アレハ則チ床机ニ踞スルナリ

此床机ハ亞國ノ軍禮ノ時ニ用エル椅子ノ如キ
者ニシテ其踞スル処ニ皮革ヲ附ケ置キコレヲ
用エル時ハ其皮革ヲ張リコレヲ用セサル時ニ
ハ其皮革ヲ疊ミ置クナリ我カ提督日本高官人
ト交接セシ時ニハ西方ノ属官下吏等ヲハ長机
ニ紅氈ヲ掛ケテコレニ踞セシメ我カ提督ト日
本高官人ハ一種ノ椅子ニ倚リテ踞立セリ此時
日本人等ノ出セル椅子ハ一種別様ノ物ニシテ
両手及ヒ其背脊ヲ安スルヲ得ヘキ様ニ作クレ
ル者ナリ又日本人ノ平居ヲ見ルニ其兩膝ヲ折

テ正坐スルヲ通例トス又或ハ其兩足ヲ必シテ
坐スルモ有リト虽トモ是下賤ノ者共ノスル所
ナリ又日本人常ニ酒宴ヲナスニハ食盤ヲ用ヒ
不然レトモ外國人ト交接スルカ如キ公宴ノ席
ニハ食盤ヲ用ヒ日本人我カ提督ヲ饗應セシ時
ナトニハ此食盤ヲ用ヘ長机ニ紅氈ヲ掛ケテ提
督ノ属官等ヲコレニ踞セシメ一フ^トノ高サ
ナル膳ヲ持チ来リテ人々ノ前毎ニコレヲ置キ
タリ其ヨリ日本人其膳ノ上ナル椀ヲ取り上ケ
テコレヨリ先喰ヒ初メタリ扱斯ノ如クスル故

ニ日本ノ饗宴ハ衆人器ヲ同フシテ喰フ莫ナク
人々皆一己ノ飲食トナルナリ又日本ノ饗宴ニ
ハ漆塗ノ盃陶製ノ皿鉢散蓮花箸此外數種ノ陶
器ハ酒席ノ重器タリ扱此膳ノ上ナル椀中ニハ
汁水ノ中臬肉ヲ浮ヘタル物ヲ入レ置クナリ日
本人ノコレヲ吸ヒ喰フヲ見ルニ其躰恰モ飢餓
ノ童子食物ヲ得テ急ニコレヲ食フカ如シ又煎
茶ノ道具ハ唐金ノ釜及ヒ陶製ノ茶瓶等ナリ而
シテ日本ノ室房ニハ房爐ヲ閑キテ炉火ノ上ニ
五徳ヲ置キ其上ニ此釜ヲ架シテ常ニ其湯水ヲ

沸騰セシメ客至ル者アレハ速カニ茶ヲ煎シテ
コレヲ客ニ吃セシム又茶碗ハ皆陶製ナリ而シ
テ或ハ木製ノ蓋ヲ以テ其茶碗ヲ覆フモアリ又
日本ノ茶ハ甘カラズ箱館ニテハ茶ニ砂糖ヲ和
スルト雖トモ猶未其甘キヲ覺ヘサルナリ又箱
館ノ大家杯ニテ寒天ノ時ニハ黒漆ノ臺ノ附キ
タル火鉢ニ木炭火ヲ置キテ以テ室内ヲ煖タム又
貧宅小舎ニテハ其窓戸ヲ封シテ寒氣ヲ防ク然
ルニ其屋上ニ烟筒ナキヲ以テ斯カル時ニ火ヲ
竈炉ニ燃ヤス莫アレハ火烟小舎ノ内ニ充滿シ

テ家人甚困窮スルナリ又箱館ハ寒土ナレハ其
小民貧者冬日ニハ小舎ノ内ニ篋居シ窓ヲ塞キ
戸ヲ掩ヒ僅カニ日光ヲ室内ニ通シテ物色ヲ辨
シ大ニ困苦シテ以テ三冬ヲ渡ルナリ然レト
モ富家大商ナトハ衣裳ヲ厚クシシトネ榻席ヲ重子種
々ノ方器ヲ設ケテ以テ寒氣ヲ凌クナリ又小舎
ニハ唯一炉ヲ関キテ木炭火ヲ置キ是ヲ湯茶
ヲ煎シ酒醴ヲ暖メ庖厨ニ煮烹ヲ兼タルモアリ
大ノ入用ニ適當セサル時ハ其物品何時迄モコ
レヲ賣リ拂フ莫能ハス故ニ下直ノ物品貧民ノ

諸用ニ相應セル者ヲ少ク用意シ置ク莫ト見ヘ
タリ先商店ニアル物品ハ重厚ナル木綿ノ類鹿
未ナル絹布ノ類并ニ衣裳ノ類數品陶製ノ諸品
銅製ノ器物毛織ノ類及ヒ書冊ナトハ絶ヘテコ
レヲ見ス又食物ノ店ニハ米麦小麦干魚海草塩
砂糖酒醬油炭薩摩芋等アリ又土人等獸類
ノ肉ヲ喰フ莫ク嗜マサルニヤ其市中ニ牛羊鷄
豚ノ肉ヲ賣ルノ商店見ス又箱館ノ食物ニ我カ
國ノキチ^チチ^チ未^レ詳^レ食物ノ名ノ如キ者アリ此食物米及
豆ヲ以テ製シタル物ニシテ箱館ノ食物ニハ此

物ヲ最^ニ多シトス按スルニ此食物トハ菓子ノ類ナルカ其品物未詳カナラス
又箱館ノ商店ヲ日本ノ風俗ト見ヘテ紙ニテ張
タル戸部ノ上ニ高ナク所ノ諸品物ヲ書キ連子
且其側ニ物品ノ値ヲ書キ添ヘタルモアリ此物
品ヲ書スルニハ支那ノ文字及和字葉スルニイロハレノ莫ナ
シルヘテ以テ書セリ又箱館ノ商人等初メノ程ハ
外國人ヲ忌ミ憚リテ我等ニ物品ヲ賣ルニモ多
ク賣ル丁ヲハ欲セサリレカトモ其後亞人ト數
度ノ交接ヲ經テ相互ニニ狎々シクナリケレハ
商人最初ノ躰ト違ヒテ高賣ノ莫ニ巧ニナリ遂

ニ我等ニ物品ヲ賣附テ大利益ヲ収メシ莫ラ欲シ
我カ國ナルカトサム市ノ商人等ノ如クニナリ
タリ又商人等亞人ニ示サンカ為ニ種々ノ物品
ヲ出シテコレヲ店前ニ連子而シテ我カ國ノニ
ユールカ名地ノ商店ニ商人等椅子ニ踞シテ高
賈ノ物品ヲ守リ居ルカ如ク箱館ノ商人等其店
ニ列坐シテ其物品ヲ守レリ又此店前ニ狭キ土
間ノ空地アリテ土人等物ヲ買フ莫アリテ其店
ニ行ク時ニハ其土間ノ処ニ立テ物品ヲ買フナ
リ然ルニ亞人等物品ヲ買ハント欲スル時ハ直

ナニ其商店ニ入りテ其席上ニ上ル故ニ商人皆
大ニ驚駭シテ恐怖セサル者ハナカリケリ又勇
敢ナル巫人等兩三輩嘗テ市中ノ高店ニ往キ直
チニ其中ニ入りテ高買ノ物品ヲ取出シ商人等
ヲシテ大ニ騷動セシメタル莫アリ然レトモ此
巫人等モ敢テ無理非道ノ莫ヲナセルニハ非サ
ルナリ時ニ此商人等大ニ驚駭シテ此莫ヲ官府
ニ訴ヘタル由ナリ又商人等ニ諸物品ノ價ヲ定
メ置キ必用ノ物ヲ高價ニ賣リテ必用ナラサル
品ヲハ下直ニ賣ル其物品ニ何カ不具ノ処アル

カ或ハ其製作麁末ニ出来タル物カ又ハ其物品
ヲ買フ人ノ心ニ悞ハサル処アル物ヲハコレヲ
下直ニ賣ルナリ○又箱館ノ地佛閣四ヶ所アリ
其一ヲレ^リヨウゲン寺ト云ヒテ寺閣ノ造営構結
甚華麗ニシテ大寺院ナリ此寺院ハ箱館ノ港口
ヨリコレヲ眺望スレハ其寺閣高ク聳ヘテ其欣
状恰モ図画セルニ異ナラス又其内ニ居ル時ハ
本堂ノ諸文飾皆精整ニシテ其華麗ヲ尽シ佛前
ノ諸器物ハ多ク金銀ヲ以テコレヲ飾リ又龜雀
龍虎等ノ形容ヲ作りテ堂中ノ文飾ヲ助ケ其諸

物実ニ一壯觀ナリ又此屋頭ノ高サハ地上ヨリ
聳ヘタル莫六十フ^トニシテ板敷ノ高サハ地
上ヨリ六フ^トナリ而シテ此板敷ノ上ニハ通
例ノ疊ヲ敷キタリ又本堂ノ西側ニ二箇ノ佛像
ヲ安置シテ稍文飾ヲ設ケタリト雖トモ其華麗
ナル莫ハ其本堂ニ及フ莫能ハス又本堂ノ入口
ニハ二本ノ大柱アリテ関門ノ形ヲナシ且其前
面ニ階様アリテ本堂ニ登ルニ供セリ又此寺院
ニ住居シテ檀下ノ者共ヲ取扱フ僧徒等ハ都合
六人アリテ其衣裳等ヲ吟味スルニ随分清潔ナ

ル物ヲ着用セリ又日本ノ寺院モ支那ノ如ク常
ニコレヲ廣ク作り置キテ佛莫ニ供スルト雖ト
モ大客ノ饗宴衆人ノ會議等総ヘテ此ノ如キ矮
屋小家ニテ辨スル莫能ハサル所ハ則チコレヲ
寺院ニ於テ行フナリ此ノ如キ時ハ其本堂ノ諸
器物前ノ机卓等ヲ悉ク去リテ廣郭ナル室堂ト
ナス故ニ此時ニハ堂中ノ形様佛舎トハ見ヘサ
ルナリ又箱館ノ一寺院ハ案スルニ此一寺院ト
ハヨウゲン寺ヲ云
フナル此度五人ノ高館ト定メタルガ此時寺院
ノ住僧等其檀下ノ佛道崇信ノ輩建議シテ此莫

ヲ破ラント謀リ且巫人等ニ少少ノ運上金ヲ出
サレメント謀レリ然レトモ其建議遂ニ行ハレ
スレテ我等ノ商館ニ定マリタリ又レヨウゲン
寺ノ周圍ニハ常盤木多ク生ヒ繁リテ寺内ノ景
色常ニ蒼々タリ又此樹陰ニ數箇ノ家屋アリ又
此外ニ一小舎アリテ其中ニ六箇ノ佛像ヲ安置
セリ又此寺内ニ入ル路ノ兩側ニ二ノ石燈籠ヲ
立ラタリ又此邊ニ女神ノ像アリテ此女神ハ其
手ニ子ヲ抱キ居タリ又此邊ニ銅製ノ佛像アリ
テ其佛ノ頭上ニハ日輪ノ如キ物ヲ頂キ居タリ

此時我等ヨノ佛像ヲ見テ此佛像ハ我カ本國ニ
テモ見タル莫アル佛像ニ等シキ莫ヲ思ヒ出レリ
○又レヨウゲン寺ノ南隣ニジツタイ寺ト云ヘ
ル一寺アリ此寺ハ其造作數年ヲ経テ其構結文
飾稀古ルビレヨウゲン寺ニ比スレハ華麗ナラ
ストス此寺ノ境内ニ數ヶ所ノ小舎アリテ其一
ハ立派ニ作りタル石燈ヲ晴雨ニ暴露セサル様
ニ之ヲ覆ヒタル者ナリ又此寺ノ住僧ナル者ハ
園庭ノ佳景ヲ愛セル人ト見ヘテ寺院ノ後面ニ
於テ其園庭ヲ開キ幽州閑花ヲ種ヘ琢木奇石ヲ移

シ矮山小池ヲ作り其好色実ニ人意ヲ快フセリ
○又港邊ノ海岸ニ樹箒連接シテ松樹海ニ臨揚
柳岸ヲ筧メタル処アリ此処一寺アリテ其名ヲ
コウリウ寺ト云ヘリ此寺堂ノ前面ニ龍ノ形ヲ
刻ミタル物アリ繁スルニ此故ヲ以テコウリウ
寺ト名ツケタルナルヘシコウリウ寺トハ即チ
高キ龍ト云ヘル莫ナリ又此寺ノ入口ノ右ノ方
ニ當リ大魚ノ形ヲ刻ミタル物アリテ其魚ノ大
サハ六フ^一ト許ナリ扱此寺古寺ニシテ其造営
大ニ零落シ荒涼タル景況ナレトモ其寺堂モ甚

廣大ニ文飾ノ諸物モ精巧ニ作りタル処ヲ見レ
ハ此寺院一寺ハ大ニ繁榮セル莫アリシ者ナリ
ト見ユ又能ク此寺院ノ境内ヲ吟味スルニ其寺
門杯モ今ハ其構結大ニ敗落セリト虫氏元來ハ
大ニ文飾ヲ尽シテ精密ニコレヲ作レル者ト見
ヘ又此外古石燈古石佛及數種ノ古物此境ニ残
リ居タリ○又此外ニシヨウミヨウ寺ト云ヘル
寺アリ此寺ハ上ニ記セル三寺ニ比スレハ小寺
ニシテ別ニ其造営等ノ形状ヲ載スルニ及ハス
トス○以上四箇寺ハ皆其境内ニ墓所アリテ墳

坐相連ナレリ又此墳堂ノ側ニ蘭塔ナトアリテ
コレニ死者ノ姓名及ヒ佛教中ノ語ヲ書シ又ハ
佛家ノ詩句ノ如キ者ヲ書セリ而シテ佛經ノ語
トハ即チ現世ノ無常ナル莫及ヒ弥陀佛ノ尊崇
スヘキ莫等ナリ又此墓処ニ一ノ奇ナル物アリ
奇ナル物トハ即チ一本ノ長ク四角ナル木柱ニ
シテ墳墓ノ間ニ直立シ而シテ其柱身ノ中ニ一
ノ小ナル鉄車輪ノ如キ物ヲ狭ミ且其柱ニハ大
圓鏡及ヒ阿弥陀經等ノ數語ヲ書記セリ此柱ノ
長サハ九八フ^ト許ニシテ其中央ニ鉄輪ヲ狭

ミ軸ヲ以テコレヲ貫キ其車輪ノ輻ハ三本ニシ
テ其一本毎ニ二ノ小鉄環ヲ周ラセリ而シテ此
処ニ来リ詣テハ此鉄輪ヲ轉廻スル者ハ必天ヨ
リ其幸ヲ受ケ又能ク其心ヲ一ニシテ此莫ヲ修
スルノ度数ヲ重ヌル者ハ殊ニ其幸福ヲ得ルト
云ヘリ又此鉄輪ヲ轉スル時ハ車輻ノ鉄環自鳴
ル此声音ハ即チ之ヲ轉スル者ノ心願ヲ天ニ告
ル者ナリト云フ○又箱館ニハ三ノ大ナル神社
アリ即チ神明八幡辨天三神ノ宮ナリ此神明八
幡杯ト云ヘルハ皆日本ノ聖人ナリシテ日本人

等之ヲ推シ尊ヒテ遂ニ神トセルナリ扱此日本
ノ諸神ハ佛道ノ此土ニ渡リテヨリコレカ為ニ
妨ケラレテ神道ノ説遂ニ振ハス然レトモ神徳
淵源ニシテ日本人ノ心ヲ收ムル莫ハ実ニ深シ
トス○又其宮室ハ元来其造営構結簡素ニシテ
華麗ヲ務メスコレニ詣ツル者モ亦稀ニシテ社
中常ニ寂然タリ又其境内牆篱無クシテ墳墓杯
モ亦其中ニ在ル莫ナシ又神社ニハ牆篱ナシト
虽凡其前ニ門アリ石燈ヲ以テ其神門ニ入ルノ
路ヲ造レリ又神主ナル者アリ是ハ直チニ神堂

ニ接シテ其住処ヲ構フモアリ或ハ神堂ヲ離レ
テ其近辺ニ住居スルモアリ社中洒掃神宮ノ祭
祀等ヲ主トル者アリ又箱館ニアルハ幡ノ宮ノ
構結ハ我等是迄見タル処ノ宮室ト違ヒテ其宮
屋ノ前面ニ一ノ窓ノ如キ物アリ其窓内ヲハ雕
物ナトヲ以テコレヲ飾リ屋上ノ廣ナル所ニ
此ノ如キ物ヲ置キ其文飾ノ諸物ヲ相連綴セシ
メラ空隙ノ地無カラシメタルヲ以テ其形容構
結宜シキヲ得タリ又此窓ノ飾ハ此宮室ノ入口
ノ屋角ノ飾ト畧相似タリ○又箱館ノ近傍ナル

山頂山腰或ハ路傍ノ松下ナトニ石佛ヲ立置ケ
リ此佛像ハ何レモ皆古物ニシテ其身上ニ苔蘚
ヲ生シ高サ四フ^フトハカリニテ小蓮臺ノ上ニ
立テ其形容年古ニテ殊ニ靈威ヲ添ヘタルヲ覺
ユ又此佛前ニ賽錢箱ノ如キ物アリ花瓶ノ如キ
物アリ又数片ノ布帛ナトヲ其前ニ掛ケタルヲ
見レハ土人等ノ佛ヲ信仰スル莫ヲ知ルニ足レ
リ扱土人等ノ此佛神ニ參詣スルハ其身ノ災難
等ヲ避ケンカ為ニシテ此佛神ハ能ク海上風波
ノ災難等ヲ救フヲ以テ舟人航客等ハ殊ニ此佛

神ニ歸依セリト云フ又此辺ニ石ノ板ノ如キ物
ヲ立テ、其上ニ文書ヲ記セル物アリ又神祠等
ノ通路ニハ三本ノ材木ニテ神門ノ形ヲ作レル
物アリ又土人等此神門ノ前ヲ通行スル時ハ必
拜首シテ禮敬ヲ神ニ修ム未自若トシテ經過ス
ル者アラズ土人嘗テ土人等ニ誘導セラレテ処々
ヲ逍遙セル時此神門ノ有ル処ニ至リケレハ土
人等急ニ土人ヲ指揮シテ此処ヲ引取ラシメタ
ル莫アリ此時土人幾ト其憤怒ニ堪ヘサリシテ
リ○扱段々上文ニ論シ来レル如ク日本人等ノ

神佛ヲ崇奉スル様子ヲ吟味シタル處ニテ西人
建議シテ曰ク日本人ヲ教化セシムルカ為ニ今ヨリ
耶穌教ヲ此境土ニ施サハ其勢速ニ行ハル、莫ヲ
得ヘキカ如何アラント是ニ於テ法師^レシヨラン
ス^レノ曰ク我カ政閣ノ議論ハ如何アラニモ知ラス
ト雖モ吾ヲ以テコレヲ見ルニ今日日本ノ政勢ハ
コレニ耶穌教ヲ施サン莫必難カラシ然レモ我
カ政閣ニテハ今耶穌教ヲ日本ニ行ハント云ク
必當時ヲ猶早シトシ其勢必行ハレシトセン吾
日本ニ来リテヨリ已来我カ國ノ死人ヲ葬リタ

ル莫四度一人^ハ之ヲ横濱ノ地ニ葬リ一度ハコレ
ヲ下田ノ地ニ埋メ箱館ニ至リテ死者ヲ葬埋レ
タル莫二回此喪莫ハ皆吾コレヲ主トシ耶穌教
葬埋ノ法ヲ以テ修行セリ然ルニ此葬埋ノ時コ
トニ日本ノ官吏其地ニ来リテ其莫ヲ檢シ人民
等相携来リテ喪儀ヲ見物セリ吾此時ニ能ク心
ヲ用ヒテ日本ノ官吏及ヒ人民等ノ様子ヲ吟味
セルニ日本人等我カ耶穌教ノ法ヲ忌ミ嫌フノ
躰ハ少シモ見ヘサリケリ是ヲ以テ能ク勸考ス
ルニ今日日本人ニ耶穌教ヲ奉セシメン莫ハ必難

カラジト思ハル、ナリ又吾嘗テ下田ニ居タリシ
時偶日本人ノ為ニ誘引セラレテ下田ノ新令尹ニ
面會セル莫アリシ時ニ此令尹ハ隨分立派ナル
人品ニテ諸莫叮嚀ニ吾ヲ取扱ヒ其ヨリ吾ハ耶
蘇教ノ宗師タル莫ヲ知リケレハ此令尹別段懇
懇ニ吾ヲ取扱ヒタリ此時吾モ此令尹斯ク殷勤
ノ待遇ヲナスト雖其内心情偽ノ程ハ如何ナ
ラント思ヒタルカ併日本ニテ實ニ外國ノ法教
ヲ嫌フ莫ナラハ仮令此官人内心ニハ我カ法教
ヲ喜フトモ外ニハ少シク之ヲ忌ミ嫌フノ体ヲ

顯ハシテ他人ニ示スヘキナリ然ルニ今此官人
公然トシテ外國法教ノ宗師ヲ愛シテ少レモ他
人ヲ憚ル莫モナキナレハ是此官人實ニ我カ法
教ヲ喜ルニシテ且日本ニテモ悉ク耶蘇教ヲ禁ス
ル莫ニハナシト見ユ然レハ日本政府ニテモ堅ク
此法教ヲ惡ムニモアラサルヘシ然リト雖其日
本人恐ラクハ未天主教ト耶蘇教ノ別アルヲ知
スレテ此兩教ヲ一樣ニ思ヒ元未其惡ム所ハ天
主教ナルヘキヲ其思慮未及ハスレテ我カ耶蘇
教モ其國外ノ法教ナレハ是モ亦天主教ト同様

ノ夏ナラント思ヒ其分別ヲ誤リ居ルナルヘシ
故ニ吾ヲ以テ此時勢ヲ料ルニ先日本人ヲ喻シ
テ天主教ト耶蘇教トノ分別ヲ知ラシメタラハ是ニ
我カ耶蘇教ヲ奉セシメン夏易カラント思フト○又箱
館ハ海陸ノ形勢岬岬岸崖丘陵港灣一トシテ防禦ノ便
宜ニ適ハサル夏ナリ實ニ天險ノ勝地ナレト人等此天險ニ
人カヲ加ヘテ海防ノ守備ヲ設ケタル躰ハ少シモ見ヘサルナリ
唯市街ノ辺ニ僅カニ二ノ城壁アリ是ハ必此港口ヨリ
攻入ラン軍艦ヲ防カン為ノ備ナルヘシ又其
城壁ノ内ニ二ノ武庫アリ又其城壁ニハ二挺

ノ大砲ヲ架シ砲眼ヲ開キテ海面ノ敵艦ヲ射撃
スルニ備ヘタリ又箱館ノ東隅ナル海岸ノ洲ニ
一ノ館舎アリテ板堀ヲ以テコレヲ圍ミ兵卒常
ニ此中ニ集リ居レリ館舎ヲ此ニ建テタルモ亦
海防ノ一助トナサンカ為ナリト見ユ板箱館ノ
地ニ海防ノ預備ト云ヘル者唯此ノ如キノミナ
リ其經營誠ニ兎戯ニ同シ此ノ如キ者ニ比スレ
ハ浦賀ノ海岸防禦ノ備ナトハコレニ勝レル夏
遠シ浦賀ノ守備ハ石牆等ヲ築キ立テ其躰
稍嚴重ニ見ユルナリ併浦賀ノ守備トテモ西洋

ノ諸國及ヒ亞國ノ軍艦ヲ以テコレヲ攻メンニ
ハ此守備船中ノ大砲ニ向テハ少シモコレニ抗
スル莫能ハス且大軍艦ニ非スレテ唯嚴密ニ備
ヘタル小舟兩三隻ヲ以テコレヲ攻ムルトモ打
破ラシ莫ハ易カルヘシ然レハ浦賀杯ノ守備ハ
我等ノ攻撃ニ向テハ決シテ防禦ノ備アリ杯ト
ハ言ハレ又莫ナレトモ箱館ノ守備ニ比較スル
時ハ其勝劣亦懸隔ノ違ヒアルナリ又箱館ノ地
モ隨分好景ノ地ナレトモ下田近辺ノ好風景如
クハ人意ヲ暢叙スル莫能ハサルナリ又箱館及

ヒ其近辺ノ地形ハ丘陵岡阜ノミ多クシテ不毛
ノ地ナリ且此ノ如キ地形ナルヲ以テ諸方ノ道
路モ直チニ其行線ヲ取ル莫能ハス且其屈曲轉
折定メナキ莫甚タレリ峻阻陝隘ニシテ平易ナ
ル莫少ナシ又市街ノ外ニ屹立セル一岩山アリ
其石土不毛ニシテ一草木ノコレニ生セルナシ
又此岩石ノ頂上ニ登ルニハ其屹然タルヲ以テ
直チニコレニ登ル莫能ハス回路ヲ作りテ漸ク
ニ其頂上ニ達スルヲ得ルナリ又此頂上ニ登ル
時ハ箱館諸地ノ好風景ヲ一目ニ臨眺スル莫ヲ

得へし我カ将士等時々此頂上ニ登リテ海面ヲ
臨眺シ亞船ト日本船ト并ニ居ルヲ見タルニ此
ノ如ク兩國ノ舟船ヲ比較シテ見ル時ハ其製造
法ノ巧拙愈々分明ニシテ目ニ立チケル故ニ我
カ将士等相共其巧拙ノ差ヲ語リテ亞國ノ精技
ニ誇レリ又箱館ノ土地ノ性質ハ美質ニシテガ
ラニ一ト寶石トイナシテ上等ヲ交ジヘ其上色
ハ多ク嵐色ナリ又土色ノ赤キ処モアリ此赤色
ノ処ニハ其地多ク水晶石ヲ混セリ又箱館岬箱館
ノ地ハ深ク海中ニ出テ其状恰モ一岬崎ノ如
シ故ニ其地ヲサシテ箱館岬ト云ヘルナリ

ノ西南岸ニ當リテ地底ノ煩火力ノ為ニ破裂セ
ラレタル一岩石アリ其破裂セル兩岩石ノ間ニ
十フ一ト許ナル一シ又其近辺ニ此ノ如キ岩石
ノ類多シ然レトモ其邊ニハ絶ヘテ寶石ノ有ル
ヲ見サルナリ又此岩石ノ破裂セル間ヨリ温泉
ノ如キ泉水湧出テ其泉水ヲ味フニ硫黄氣ヲ帶
ヒタル水素瓦斯ヲ含メリ又此泉水ヲ人身ニ觸
レシムル時ハ少シク温氣アルヲ覺ユ匠官ノ云
ヘルニ此水ハ曾ノ毒ヲナスト云ヘリ又此水ヲ
汲ミテコレヲ他器ニ移シ置ク時ハ其瓦斯十ト

ハ乍チニ消失スルナリ又此水ハソヂユムノ氣
ヲ含ミテ多ク硫黄氣ヲ帶ヒタリ亞人此温泉ノ
水ヲ吟味セル莫ヲ以テ分析学者[「]ドルロギリ
シニ告ケ、レハギリ[」]ン其泉水ハ曾ノ害ヲナス
ナト、云ヘルヲ聞テ曰ク此泉水ハ決シテ毒水ニ
非ス此泉水ニ浴スル時ハ先兩使ノ通行ニ巧能
アリ又人身ノ皮上ニアル諸疾ヲ治スルニ甚妙
ナリ又上癸氣閉塞セル諸病ヲ治スルニモ此泉
水ニ沐浴スルヲ善シトスルナリ又亞人ヲ此處
へ透引シテ其温泉ヲ見物セシメタル土人等ハ

此泉水ハ飲ムヘカラスト雖トモ沐浴スルニハ
誠ニ宜シト云ヘリ又土人等此温泉ノ邊ニ神ヲ
安置シテ甚其温泉ヲ貴重セリ又此温泉ノ西方
ヲ去ル莫ニ三百[「]五[」]ルノ處ニ天然ニ生成セル大
洞穴アリ此洞穴ハ海岸ヨリ陸地ノ内ニ入り込
ミタル者ニシテ海中其中ニ満チ小舟ニ乘シテ
此中ニ入ル莫ヲ得ルナリ又此洞穴ノ高サハ三
十[「]フ[」]トニレチ其廣サハ十二[「]フ[」]トナリ又洞
口ノ水深キ莫二十[「]フ[」]ト許ナリ亞人小舟ニ乘
シテ此中ニ入り洞中ノ暗黒ニシテ物色ヲ辨ス

ル其能ハサル処ニ至リケレハ其洞線此処ニ至
リ左右ニ分シ居タリ水ノ深サ若ニ洞穴ノ高サ
ハ其入口ヨリ此処ニ至ル迄同等ナリ此洞中ハ
其空氣甚密ニシテ稍寒キヲ覺ヘ水平カニ風少
ナフシテ舟中甚安全ナリ又此洞底ハ皆白沙ニ
メ天氣清明ノ時ニハ其水ヲ見ル其得ルナリ
又海洋ニテ風波ノアル時ハ此洞中モ自ラ少ナ
ク波水ノ動揺スル其アラン又此洞口ニハ柱状
ノ岩石アリテコレヲ覆ヒタリ又我等初メノ程
ハ此柱形ノ岩石ノ質ヲ英吉利意^イ爾^ル蘭^ラ土^トノ^キユ

ントコロスエ^地ニ在ル石ノ性質ニ同シト
見タルカ能クコレヲ吟味スレハ^ガラニ^ト石
ノ性質ニ似タリ○箱館半島ノ地ニ海岸ニ沿ヒ
タル一漁村アリ名ヲシ^ラワサギト云ヘリ此村
ノ近辺ナル山ノ側ニ畑地アリ此畑地ニハ箱館
人等ノ食用ニ供センカ為ニ種々ノ野菜ヲ種ヘ
置タリ此野菜ノ種類葱大根芋等ナリ此大根ト
ハ或ハ煮テコレヲ用ヒ或ハ生ニテコレヲ用ヘ
能クコレヲ魚類ニ和シテ食料ニ供スル物ナリ
又箱館村ノ近辺ナル小地峽ノ如キ地面ニハ畑

地ノ如ク作りタル地処アリト雖何ノ野菜ヲ
モ種へ置カス又此外ニモ畑土処々ニアレトモ
元来此辺ノ土地ハ砂土ナルヲ以テ耕種ノ宜ニ
ハ利アラサル莫ト見ヘタリ又此邊ニ松樹先ニ
樺木ニ用ユヘキ白松樹名未詳此外ニ花ヲ生スルノ
樹子ノ結フノ木多クアリ又此邊ナル丘陵ノ北
面ニハ數種ノ野菜ヲ種へ置タリ又箱館ノ土人
等ハ其港内ニ於テ諸方ノ商人航客ト交接シテ
互市ヲナシテ或ハ其海上ニ釣漁ヲ務メテ利ヲ
得ルヲ以テ本意トスル故ニ陸地耕種ノ宜クハ

敢テ專務トハセサルナリ又箱館ノ土人等及ヒ
其近邊ノ者共ハ奥蝦夷或ハ松前邑及ヒ他ノ盛
ンナルニ交商ヲ行フ日本中ノ諸國ト通商スル
ナリ又商船箱館ヨリ積ミ出ル物ハ塩魚干魚海
草ノ類炭角材木此外蝦夷ノ諸産物等ナリ此商
船右ノ諸品ヲ積ミ出テコレヲ賣リ拂ヒ歸船ノ
時ニハ米砂糖及茶此外穀物類芋烟草木綿絹類
陶器及ヒ漆器類ヲ積ミ入テ歸ルナリ我カ提督
暫時箱館港ニ碇泊セシ間ニ商船此港ヲ出テ日
本ノ南方ノ諸港ニ登向セル莫百余艘ニ及ヘリ

然ルニ此諸船其中ニ積ミ出テタル物ハ海草干
魚等ニシテ皆海中ノ産物ナリ又此諸船日本南
海ノ諸港ニ赴リニハ其舟路直チニ東海ニ由テ
スニテ北海ニ向ヘリ是東海ノ航路ハ險難ナリ
ト云フテ以テナリ又此諸船ヲ見ルニ其製作ハ
何レモ同シ更ニシテ其大サハ我カ國ノ度量ヲ
以テコレヲ計ルニ一百ト^ト量^量ノ物ヲ積ミ入ル
ヘシ叔箱館ハ繁華ノ地ニシテ此箱館ノ商人等
舟船ヲ以テ常ニ往來交接スル諸地ハ松前ノ南
方ナル佐渡江戸越後長崎尾張下ノ関大坂等ナ

リ此箱館人交商ノ更ニ付キテ我カ提督論シテ
曰ク吾稍日本ノ政体ヲ知ル日本ノ政体ハ海外
ノ諸國ト交商ヲナサ、ルノ法ニシテ又舟船ノ
製造法ハ一様ノ製法ニシテ遙カニ天下諸國ノ製
造法異ナリ又此舟船製造ハ國製ノ公法アリテ
舟工船匠等私ノ工夫ヲ以テ其公法ニ異ニスルヲ得
ス必其國中ノ通制ニ依リテ其舟船ヲ造ルコレ
ニ背ク者ハ則チ其罪ヲ蒙ル古人^テハフル氏ノ
著述セル書ニ日本國舟船製造法ノ更ニ付キテ論シ
タル更アルニ日本船制作ハ其長ハ十四^ト廣

廿二十四^フトナリトアリ而シテ此書ニ其舟
底ノ深サノ^フニ付キテハ何モ論シ置キタル莫
ハ無シト雖モ吾ヲ以テコレヲ考フルニ日本船
ノ製法ハ元来其舟底他國ノ制ニ比スレハ甚淺
キ故ニ長サ八十四^フトニ廣サ二十四^フト
ナル船ナラハ其深サハ板子ノ下ヨリ八^フト
モアルヘシト思ハル扱ケルム^フ氏ノ時代ヨリ
此日本船ノ制式ハ久シク變革モナカリシニ當
時ニ至リテハ少シク^ケン^フル^氏ノ論シ置タル
制式ヨリ少シク變革セル莫ト^ニエ今度箱館^ニテ

見物セル千余艘ノ每船其制作大約皆同様ニシ
テ其造營ノ諸式皆^ケム^フル^氏ノ明察ナル論說
ニ合ヘリ唯其船尾ノ側ニ堅固ナル波避ヲ附着
シテ其船尾ヲ閉キ坐レテ以テ海面ヲ眺望スヘ
シ此処ハ^ケム^フル^氏ノ論セシ処ニ無キ莫ナレ
ハ是必日本船製造法ノ近頃ノ變革ナルヘシ又
舵ハ其形大ニシテ水夫船尾ニ居リテコレヲ取
扱ヒ船尾ニ横出セル一木ニ其舵ヲ附着ヒコノ
木ヲ以テ其舵ヲ運動セルナリ扱日本ノ諸船其
船尾ヲ閉キタルハ是實ニ航行ノ便ニ備ヘタル

ナリ然レハケムフル氏及ヒ諸子ノ説ニモ日本
ノ制度ハ其舟航ノ外國ニ行クヲ禁スルトアリ
テ吾等此度日本ニ渡来シテ和交ノ約ヲ定メシ
以前マテハ其舟人航客不幸ニシテ颶風杯
為メニ外國ニ往キタル者アル時ハ日本政府
ニテ皆之レヲ死刑ニ行ヒタリ是故ヨリシ
テ遂ニ其船尾ヲ開キ航海ノ時ニ舟人等常ニ
此船尾ヨリ諸方ヲ眺望シ海陸ノ目當ヲ失フ莫
ナク航行ノ方角ヲ誤ル莫ナク日本ノ近海ニ離
レテ不意ニ外國ノ方ヘ向フノ過キ無カラシメ

ント欲セル莫ト見ヘタリ又支那船ノ航ナレヒ
其船尾ノ構結モ畧日本船ニ似タリ又日本船ノ
舵ハ元来之ヲ楫櫓ノ如クニ用ヘタル器械ト見
エ又日本船其船尾ニ於テ船内ノ方ヘ入込ミタ
ル門口ヲ設ケタルハ舵ヲ水中ヨリ引キ揚タル
ニ便利ナラシメタルナリ又日本船ハ其兩側弯
曲シテ其形雙弓ヲ合セタルカ如ク而シテ其船
頭ニハ直立セル舳首アリ帆檣ハ唯一本ニシテ
兩側面ノ正中ニ直立シ而シテ其船尾ノ方ヘ偏
ヨリ船帆ハ唯一截ヨリ用ヒスモ其首ノ処ハ方

形ヲナシ數線ノ帆綱ヲ以テ其帆ヲ上下卷舒シ
海風ノ方向強弱等ニ隨ヒテ隨意ニ其帆ヲ取扱
ヒ舟行ノ便ヲ得ルニ供セリ又我カ國杯ニテハ
帆ヲカケテ利アラサル時ニハ其帆片ヲ帆桁ニ
捲キ附クルヲ日本ニテ斯ル時ニハコレヲ樁柱
ニ捲クナリ又日本船ノ甲板ハ堅固ニコレヲ造
リテ其船中ニ積ミ入ル、荷物ヲ安全ニ此上ニ置
クナリ又船尾ニ一屋アリテ船中ノ將官等其屋
中ニ居レリ又屋中ニ戸障ヲ以テ區別セラル一室
アリキ一ノ神像ヲ其室内ニ安置セリ又帆樁ト

船首トノ間ニ板屋或ハ草屋ノ居室アリテ此居
室ハ每人水夫等ノ居処ナリ又每人水夫等ノ人
員ハ通例一船中ニ三十人許ナリトス板日本船
ノ造営法ハ斯ノ如ク拙ナキヲ以テ或人ノ説ニモ
日本ノ舟船ハ其自國ノ沿海ヲ航行スルモ誠ニ容
易ナラサル莫ニシテ大洋ノ航行外國ノ往來等
ハ逆モ出来サルナリ且又斯ノ如キ船ニテ大風
雲雨ノ日ニハ其航行其險難ナレハ必シモ天ノ
晴レ風ノ定マルヲ待テ而後ニ其船ヲ出スヘキ
ノミ此故ニ日本ノ船頭舟師等其船ヲ進ムルニハ

海岸ヨリ島嶼ニ至リ島嶼ヨリ港湾ニ至リ唯其沿
海峽湾等ヲ航行シテ漸々タル大洋ニハ少シモ
其船ヲ出ス莫能ハスト云ヘルハ誠ニ左モアル
ヘキ莫ナリ又日本ノ大船ニ附屬小舟ハ我カ國
ノ小舟ニ比スレハ少シク大ニシテ且其製造法
ハ日本ノ大船ノ製造法ト甚異ナリトス而シテ
此小舟ヲ進退スルニハ櫓ノ使用法ニテコレヲ
運動セシムルナリ又我等此度箱館ニテ一ノ小
舟ヲ見タルニ舟人コノ小舟ヲ進ムルニハ我カ
國ニテ小舟ヲ使用スルカ如ク楫ヲ以テセリ是

ハ日本海ニテハ誠ニ珍ラシキ莫ナリ扱我等日
本ノ舟工船匠等ノ作莫ヲ精シク検査セシ莫モ
ナケレトモ案スルニ日本ノ工匠等ハ舟船精製
ノ學術ナク物理ヲ窮メスシテ其莫ヲ執ルト見
ヘタリ元来日本ニテ造船法ヲ一式ニ定メラ此
一式ノ外ニ異様ノ舟船ヲ造クルヲ禁シタル故
ニ匠工等モ別ニ其工夫ヲ費ス莫ナクシテ新奇
ノ便利ナル莫ヲ發明セサルナリ又舟工ノ船ヲ
造クルニハ宜シク先其器ヲ利スヘシ然ルニ日
本舟工等ノ器械ハ實ニ善カラス而シテ其造作

ノ莫モ甚麁末ナリ又日本ノ舟工等ハ造船ノ堅
固ヲ助クルニハ鉄ヲ用エルヨリモ銅ヲ用エル
ヲ善トセリ又日本ノ政道ニ造船ノ法ヲ一式ニ
定メテ別様ノ製造ヲ許容セサルハ實ニ窮理格
知ノ道ニ背キテ技術ノ精妙ヲ求ムル所以ニア
ラス又其國人一旦外國ニ往キテ帰ル者アレハ
必コレヲ死刑ニ行フハ誠ニ日本ノ不善ナル制
度ナリ吾日本人ト追深ク交通セハ必日本人ニ
其利害ヲ説キ示シテ此兩條ノ法ヲ除カシメン
ト思フナリ然レトモ日本人ハ固牢ナル莫甚シ

ケレハ我カ此言ニ從ハシカ從ハサルカ其程ハ
吾モ預メコレヲ料リ難シ候ナカラ吾日本ノ様
子ヲ窺ヒテ浦賀ノ官人香山榮左工門カ日本政
府ノ命ヲ蒙リ我カシヤプレ船ノ製造式ニ倣フ
テ新ニ船ヲ造ラントスル由アルヲ聞キタリ又
日本ノ官人ヨリ此度我カ船中ニ入り来レル三
ハト云ヘル日本ノ水夫ヲ再ヒ日本へ歸サレン
莫ヲ乞ヒタルヨシモ聞ヘタリ尤此三八ヲ歸サ
ニ莫ヲ乞ヒタルニハ是迄日本ニ於テハ其國人
ノ外國ニ往キテ帰ル者アレハ直チニコレヲ死

刑ニ行ヒタレトモ此度三八ヲ帰スニ於テ急度
右様ノ取扱致サ、ルノ旨ヲ日本ノ官人引請ノ
上ニテ此三八ヲ乞ヒタル由ナリ是等ノ地ヲ以
テ熟ク日本ノ様子ヲ勘考スルニ日本ニテモ向
後ハ此不仁ナル法制ヲ除キタルカトモ思ハル
ナリ扱日本ニテハ我カ「シヤブレ」船ニ倣フテ舟
船ヲ造ラン杯ト云ヘハ定メテ造船ノ法式ヲモ
改革セラレタルヘレ然レトモ如何様ニ改革シ
タリケン其様子ヲハ未コレヲ聞カサルナリ又
吾日本海ニ於テ軍艦ヲハ一艘モ見タル莫ナシ

日本國ニテハ大平久シク打續キテ其境内只今
迄戦争ノ虞ナカリシ故ニ軍艦ノ無キハ左モア
ル莫ナリ又日本人等ハ其舟船ノ中ニ軍艦ハア
ラサレトモ若海上ノ戦争アル時ハ日本人其舟
船ノ最大ナルヲ撰ミテコレニ輕加農砲及ヒ急
徹士砲杯ヲ備ヘテ軍用ニ供スル時ハ十分ノ軍
用ヲナスニ足ラント思ヘルニ似タリト
以上彼理ノ
論説ナリ
○箱館ノ居民等多クハ澳人ニシテ常ニ澳釣ノ
利ヲ得ル莫ク我カ諸船箱館港へ碇泊ノ間船中
ノ水夫等モ此港内ニ魚網ヲ張りテ其利ヲ試ミ

タルニ此水夫等モ亦大ニ魚ヲ得タリ此網中ニ
 得タル魚類ノ中ニ鱒魚アリケルニ此鱒魚ハ亞
 國ノ海中ニ居ル鱒魚ニ比スレハ甚小ニシテ僅
 カニ其半ニ當ル莫ク得ヘシ又箱館港ノ内ニ蟹
 虫多クシテ土人常ニコレヲ食用ニ供セリ又一
 日船中ノ亞人等箱館ノ野ニ出テ射獵セシニ此亞人
 等射獵ノ利ヲハ得サリケルトモ箱館ノ近野ニ
 之随分雁杯ノ禽鳥多ク居リテ其遊獵大ニ人心
 ヲ慰メタリ然レトモ^トビ^トセ^ト鳥^トハ甚
 少ナクシテ鳴^トトノ諸鳥ハ多ク此邊ニ居レリ

鳥ノ名未詳ナラス

又此辺ニ居ル獸類ハ狐野猪熊等ナリ又土人等
 此狐ヲ惡ム莫甚シ是ハ此獸ノ魔物ニシテ能ク
 人ニ害ヲナスト云フヲ以テナリ此故ニ土人等
 此獸ヲ見レバ直ニコレヲ殺シテ疑フ所ナシ又
 其獸ノ牝牡交合セル者杯ヲ見ル時ハ土人等コ
 レヲ好時節ナリトシ直ニコレヲ打殺シテ其皮
 ヲハキ取ルナリ○箱館ノ地ハ我カ國ノ鯨漁諸
 船ノ會集地ニ宜シキ処ニアルヲ以テ向後我カ
 諸船必此港内ニ來泊スル莫クカルヘシ和蘭人
 風西^シ勃^ル兒^ト云ヘル莫アリ日本人外國船ノ松前

箱館ノ近海ヲ通行スル者ハ一年ノ内ニ六十艘
許ヲ見ルト云ヘリ案スルニ此諸船ハ皆亞國ノ
鯨漁船ナラント又西勃見多云ヘル莫アリ此澳
船ハ亞國ノ日本ト和親ヲ結ハサル以前ハ松前
ノ近海ヲ往来セシ時海岸ヨリ大砲ノ彈丸ノ到
達スル処迄近寄りタル莫ハ無カリシカトモ和
親ノ後ハ此諸船右様ノ配慮ヲ止メテ自由其近
海ヲ航行スル莫ニナレリト○箱館港ハ速カニ
繁華ノ大會所トハナルヘカラサレトモ諸國ヨ
リ此港内ニ来泊スル鯨漁船等ニ其缺乏ノ物品

薪水食料等ノ諸物ヲ給セン莫ハ十分ニ餘リア
ルヘシ又日本ニテハ元来其食料ニ魚類ヲ多ク
用ヘ魚類ヲ貴重シテ之ヲ續命ノ根本ト云ヘリ
斯ク魚品ヲ貴重スルヲ以テ日本人ノ物品ヲ贈
遺スルニハ必其贈物ニ此魚片ヲ紙ニ包ミテ添
ヘ附ルナリ又箱館ニテハ牛馬等ノ畜類アリト
雖氏コレヲ食セシテ轉運騎乘等ノ諸用ニ供
シ之ヲ使用スル莫甚フレテ遂ニ其肉ヲ食フヘ
カラサルニ至ル又箱館ニテハ諸畜ノ内最能ク
馬ヲ使用スルナリ此馬ハ亞國ノ馬ニ比スレハ

小ナレトモ其身体壯健ニシテ大ニ其力用ヲ致
セリ又箱館邑ノ街道ハ廣クシテ之ニ砂石ヲ敷
キ馱馬駕籠等ノ往来ニ甚便利ナル所アリ此駕
籠ト云ヘル物ハ旅人ノ往来ノ為ニ設ケ置シ者
ニシテ其持主ノ貧富ナトニ依リテ其造作文飾
等ノ美ナルモアリ美ナラサルモアリ而シテ其
製造ハ木作ノ箱ニ捧ヲ貫キタルカ如キ物ニシ
テ其棒ノ両端ヲ二人ノ肩ニテ荷フナリコレニ
駕スルトモ格別快ヨキ者ニハアラサルナリ○
又箱館ハ下田ト比スル時ハ其土遙カニ北方ニ

アリテ其近辺ハ亦夕下田ノ如ク山陵並阜等ノ
多キ処ナレトモ其山陵市街ヲ離ル、遙カニ
シテ較峻岨ナリトス又箱館ノ近辺ナル高山ノ
頂ニハ四時共ニ雪ヲ留メテ此地ノ氣候ハ下田
ニ比スレハ冬春共ニ寒ク烟霧ナトモ亦深シ寒
暑針ノ度ハ五月十八日ヨリ六月三日ノ間五十
一度ヨリシテ六十六度許ニ上リ風雨針ハ二
十九度四十九分ヨリ三十度五分位ナリキ又
箱館ノ地ハ氣候不順ニシテ或ハ俄カニ嚴寒ニ
ナル丁アリ或ハ急ニ酷暑ニナル時アリ是ヲ以

テ其居民等此氣候ニ感シテ疾病ヲ得ル莫モ
アリト雖トモ亞國ノ北地ノ如ク惡疾ノ
流行スルニハアラス又箱館ノ地ハ山ノ尾
上ニシテ其空氣甚タ清淨ナルヲ以テ
其地人身ノ健康ヲ養フモ宜シトス然
レハ下田箱館ノ兩地ハ疫病流行ノ
患ナキヲ以テ亞國ノ軍艦支那ノ海港
ニ滯留スルノ時若支那ニテ熱病亦痢等ノ流
行スル莫アラハ其軍艦速カニコレヲ下田箱館等
ノ地ニ避クヘシ又支那ノ海港ニテ惡病ノ流行

スル莫ハ多ク復ト秋トノ間ニアリトスルナリ
然レトモゴロ⁷ウニ¹氏ノ説ニハ箱館ノ地
ハ氣候惡シキヲ以テ土人等壞血病ヲ煩フ莫ア
リ故ニカ、ル時ニハ其港ニ碇泊セル諸船中ノ
疫病ヲ防クノ用意最肝要ナリト云ヘル莫アリ
又箱館ノ地ニハ時トシテ野菜ノ乏シキ莫アリ
是箱館ノ地ハ冬長ク春寒クシテ野菜ノ發生スル莫
甚遅ク且又此地ノ居民等多クハ釣漁ヲ莫トメ耕
種ノ業ヲ務ムル者少ナキヲ以テナリ然レハ斯ノ
如ク野菜類ノ少ナキ時ニ旅客久シク箱館ニ逗留

スル時ハ此壞血病ヲ受クル莫アラシ故ニ亞船航遊
シテ箱館ニ至ランニハ此野菜類ノ草食缺乏ノ時
即ニ逢ハンモ計リ難シ旅人宜シク心ヲ用ヒテ此害ヲ
避クヘシ又箱館ノ人口ハ大約六千人ヨリ八千
人迄ニトス而シテ此土人等ノ職業ハ多ク海上ノ力
役ナルヲ以テ土人等ノ筋骨多分ハ強壯ナリトス又蝦
夷ノ土人ニアイノトイヘル人種アリ然レトモ箱
館ノ近辺ニ於テハ此人種ヲ見ル莫稀ナリ然ル
ニ提督[「]ホルカノ[」]港ニ滯留セシ間ニコノ人種ヲ
能ク吟味シタルニ此人種ハ歐羅巴人ニ比スレ

ハ較々少体ニシテ且愚昧ノ色アリ又其面体ハ
黒クシテ毛髮モ亦黒シ髮ハ剃ル所ナリシテコ
レヲ梳ラス股ハ裸体ニシテコレヲ掩フ莫ナレ
又面上ニ毛ノ多ク生セルヲ以テ我等コレヲ
ハイレ[「]キユリルス[」]毛髮ノ多キ蝦夷人ト云ヘル義ナリト名ツケタリ
又此[「]アイノ[」]等ハ短褐ヲ着用シテ其裳僅カニ膝
ニ至リ又此短衣ハ獸皮ナトヲ以テ製シタル者
ニシテ袋ノ如キ廣袖ヲ附ケタリ又此[「]アイノ[」]ハ
其毛髮ヲ剃梳セスシテ萬端風情ナルヲ以テ愈
々愚昧ノ人相ヲ顯ハセリ又此人種ハ各々其附

属スル所ノ日本人アリ専ラ漁獵ヲ莫トシテ其
主者ノ為ニ徭役ヲ執レリ○又箱館ノ人民多ク
ハ漢人ナレトモ其市中ニハ商人平人等モ亦住
居セリ然レハ此地舟人漢客ノミ多クシテ居住定
メテ不自由ノ莫モアラント思ハルレトモ亦商
人モアリ工匠等モアリテ財用諸物何ノ欠乏ナ
ク人民皆其便ヲ得テコレニ住居セリ又日本ノ
工匠等莫ヲ作スニハ器械利カラス道具備ハラ
ス亦器物製造ノ學術ヲ講スル莫モ明カナラサ
ルニ其物ヲ作り器ヲ製スル莫甚精巧ヲ得タリ

是ヲ以テ日本人手職ノ妙ナル莫誠ニ驚クヘキ
ナリ又日本人他國ノ器物ヲ見其製造法ニ倣
テ其器物ヲ作レハ則チ其則トリタル物ニ異ナ
ル莫ナレ是ヲ以テ考フル時ハ追々日本人其器
械術ニ長シテ精巧ノ造作遂ニ諸國ニ冠タラニ
ト思ハル且又吾人等日本ノ工匠等木材ヲ以テ
家屋ヲ造作スルヲ見テ皆其精巧ナルニ感心セ
サル者ハ無カリケリ又箱館ノ市中ニ桶師アリ
テ此地ハ元来桶器ヲ大ニ入用ノ處ナリ如何ト
ナレハ塩魚干魚等ノ諸品物ヲ運漕スルニ皆此

桶器ニ入レテ船中ニ積ミ込ムナリ又此桶器ハ
其上部ヲ閑キ箱ヲ以テ其周圍ヲ固結セリ又箱
館ニ鉄ユアリテ諸々ノ鉄器ヲ作り能ク鉄ヲ鍊
フル莫知リテ刀劍ノ類ヲ見ルニ其金色鮮カニ
シテ鋼ノ質最ヨシ然レトモ土人等ノ常ニ用ユ
ル小刀ナトハ甚粗悪ナリ我カ船中一人アリテ
箱館市中ヨリ一ノ剃髮刀ヲ買ヒ来リテ其利鈍
ヲ試ミタル莫アリシニ其小刀甚鈍クシテ少シ
モ切レサリケリ又此地ニハ鉄ユ多シト雖モ皆
小工ニシテ大家ナシ又日本ノ鉄工等用ユル所

ノ鞆ハ一種別様ノ物ニシテ先空氣ヲ入レ置ク
一ノ箱ヲ作り此内ニ一本ノ機物ヲ装置シ其柄
ヲ以テコレヲ進退シテ二本ノ管ヨリ空氣ヲ出
入スルナリ○又箱館ニテハ木炭ヲ通例日用ノ
薪トシテコレヲ用ユ此木炭多クハ此地ノ山中
ニテ焼ク所ニシテ日々山中ヨリ馬ヲ以テ箱館
市中ニ運送ス又箱館人ハ他國ノ交通廣キヲ以
テ造船所ヲ構ヘテ常ニ絶ヘス舟船ヲ造リ此舟
船ヲ以テ処々方々ニ交通スルナリ又此舟船ヲ
作ルニハ松杉ノ類ヲ以テコレヲ作り銅ヲ以テ

コレヲ固ムルヲ多シトス而シテ此舟船ノ造營
構結ハ遙ニ支那船ニ勝レリ此船ノ丈ニ付キテ
此以前ニ於テ既ニ委シク論シタレハ爰ニハコ
レヲ畧スナリ又箱館ノ市中ニハ精巧ニ作レル
數種ノ物品アリト雖トモ唯其本國土地ノ入用
ニ供セルノミニテコレヲ外國ナトニ賣出シテ
其利ヲ興スノ計ハ見ヘサリケリ又日本人ハ數
種ノ手職ニ達シ居ルト雖トモ未羅紗ヲ織ルノ
術ヲ得サルト見ヘ亞人ノ衣ヲ見テ大ニコレヲ
賞羨セリ又日本布ハ多ク下賤ノ者ノ織ル所ニ

シテ通例ノ人家ニ在ル織機ニテコレヲ織ルモ
ノナレハ其布多分粗末ナリトス又日本ノ婦人
ハ通例織布ノ業ヲ知リテ粗布ヲ織ラサル者少
シ又日本人此布ヲ種々ノ色ニ染ムルト雖トモ
之ヲ洗濯スル時ハ其色甚タ変シ易シ又布ノ幅
ハ他ノ絹類ノ如ク大約十八^一英寸位ナリ而シ
テ此布ハ亞國及ニ歐羅巴ノ諸市ニハコレヲ見
タル者ナシ又日本ノ絹ハ其織方我カブ^一ロカ^一
デ^一縮ニ似タル物ナリ然レトモブ^一ロカ^一デ^一ニ比
スル時ハ強クシテ且柔カナラストス而シテ此

絹ハ金糸杯ヲ織リ込ミテ甚美ナル者アリコレ
ヲ用ユルハ多ク高輩貴人ノ羽織杯ニ用ユ我カ
將官一人アリ箱館ノ市中ニ於テ此絹ヲ一ヤ^リト
尺ヲ十三^セセント^名ニテ買ヒ得タリト虫トモ日
本ニテハ此絹ヲ最高價ノ品ナリトセ又種々ノ
色ニ染メタル一ノ絹アリ日本ニテ多クハコレ
ヲ卧衾ナトニ用ユ此外日本ヨリ産スル所ノ諸
品多クハ支那ノ産物ニ勝レリ又陶器ハ支那製
ニ異ナル莫ナシ唯其文飾ナトハ少シク異様ナ
ル莫アリト虫トモ其細工ハ甚精妙ニシテ是実

ニ日本人ノ手職ニ長シタル一證ナリトス〇又
ミ^リス^レシ^ウキ^ノ船^ノ僧^ニヨ^リラ^ンス^箱館^ニ於^テ日
本ノ画工ノ画カクヲ見タルニ其画法初ヨリ下
書ヲナサスレテ直チニ山水鳥獸ナトヲ画カキ
其コレヲ画ク莫甚容易ニ見ヘテ且巧ミナリ又
草木ノ葉杯ヲ画カクニハ画工一手ニ一本ノ筆
ヲ持テコレヲ画カキタルニ其法甚精妙ナリト
云フニハアラサレトモ其画甚雅風アリテ愛ス
ヘレ又我カ諸船初メ日本ニ来リシ時日本人我
カ蒸気船ヲ見テ大ニコレヲ奇ナリトシ其図ヲ

取ルノ間アレハ少時ノ時ハ其諸機ヲ吟味シテ
其形ヲ模写セリ然ルニ我カ諸船再々日本ニ来
リシ時ニ及ンテ¹ヨラン²ス日本人ノ亜國蒸氣
船ノ形ヲ甚巧ニ画カキタル者ヲ見タリ是ニ於
テ¹ヨラン²ス日本人ヨリ其図ヲ買ヒ取ラント
セシニ日本人甚コノ図式ヲ貴重シテ高價ニア
ラサレハコレヲ賣ラサルノ由ナリ然レトモ¹ジ
ヨラン²ス日本人ノ蒸氣船ナトヲ画カクニ早斯
迄巧ニナリタル莫ヲ¹亜人ニ知ラシメント思ヒ
ケレハ高價ナレトモ其図式ヲ買ヒ来レル莫ア

リ○又下田箱館兩港ノ市街ニハ書籍扱ヲ出板
スル所ナシ然レトモ書肆アリテ多ク書籍ヲ賣
レリ是日本ノ人民ハ男女共ニ書ヲ讀ムヲ常ト
スレハナリ又日本國中総テ此風習アルヲ以テ
其婦人ハ全ク女身ノナスヘキ莫ヲ¹瘵レテ專文
学ヲ業トスル者アリ又此度¹亜人ト應接シタル
日本人ニ其本國ノ莫ヲ能ク知ラズレテ反リテ
世界ノ地理外國ノ莫物ナトヲ知レル者アリタ
リ此者¹亜人ニ語リテ曰ク日本ニテハ是迄和蘭
人ト長崎ニ於テ交通ヲナシ數種ノ西洋書ヲ傳

へコレヲ我カ國語ニ翻譯レテ遍ク國中ニ示セ
ル故ニ西洋諸州等ノ様子ハ日本人明カニコレ
ヲ知レリト右等ノ処ニ據レハ日本人モ火輪車
傳信機写真機大砲蒸氣船等ノ莫ハ少シク心得
居タリト見エレトモ我カ提督此度此諸器ヲ日
本ニ持參セヌ以前ハ日本人未コレヲ見タル莫
ハ無カルヘシ又此日本人、亞人ニ歐羅巴ノ治乱
亞國ノ戦争華盛頓拿破崙ノ莫ヲ語レリ又
此以前千八百四十九年ノ頃メキシコノ戦争ノ
後我カ國ノ將ベントナレフルト云ヘル船ニ乘

リテ日本へ来リシ時ノ物語ニ此時日本ノ通辨
官我カ船將グレイント對話セシ時日本ノ通辨
官グレインニ問ヒテ公メキシコノ戦争ニ出陣
セシヤ且又此戦ノ時ニ亞人金礦ノ出ル所ヲ發見
セサリシヤト云ヒケレハグレインコレニ答ヘ
テ吾モ此陣ニ出陣致シ且此時金礦ヲ發見セリ
ト云ヘル由是ベントノ談話ナリ船將グレイン
トハ此時松前ノ地ニ囚人トナリ居タル亞國ノ
水夫ヲ迎シカ為ニ日本ニ来リテ即時ニ其水夫
ヲ引連レテ本國ニ歸リタル人ナリ又此時日本

ノ通辨官亞人ニ語りテ吾等此囚人ヲ守リ居タ
ル間ニ囚人ヨリ亞國メキシコト戦ヒテ大ニ勝
利ヲ得タル由ヲ委細ニ聞及ヒタリト語りケル
トソ此日本人我カ國ノ水夫ヨリ是等ノ夏ヲ聞
及ヒタルハ皆和蘭語ニテ談合セルナリ又日本
ノ上品ノ人民等我カ船中ニ来ル時ハ能ク蒸氣
器ヲ既索シテ其諸機ヲ吟味スルノ如クニ亞人
若上陸シテ地々ヲ徘徊スル夏アレハ箱館ノ人
民等必喜ニテ亞人ノ衣裳等ヲ委曲ニ吟味セリ
又亞人市中ニ逍遙スル時ハ日本人必亞人等ヲ

取圍ミテ亞人等ノ姓名及諸物ノ亞名ヲ問ヒ紙
筆ヲ取出シテ一々コレヲ書記セリ○又日本人
ハ平常能ク其職務ヲ勤ムルト雖トモ時々祭日
アリテ此日ハ其職業ヲ休ミテ平日ノ勞ヲ養フ
又夜中或ハ閑暇ノ節ハ各々其好ム處ノ遊具ヲ
以テ心ヲ慰メ氣ヲ養ヘリアル日箱館ニ於テ亞
國ノ醫師「グレイ」ンス法師「ジョ」ント共ニ徘徊
セシニ天俄カニ雨降り来リケレハ兩人此雨ヲ
避ケントテ一ノ番舎ニ入リケルニ一ノ遊具ヲ
見タリ是ニ於テ「グレイ」ニ其遊技ヲ学バントテ

暫時ノ間此舎中ニ苗リ通辨官ノ教授ヲ受ケテ
 此遊技ヲ學ビ得タリ然ルニ此遊具ヲ日本ニテ
 將棊ト云ヒ日本人最此遊技ヲ好ミテ常ニコノ
 遊ヲナセリ此棊ニ付キテグレインノ談話アリ
 即チコレヲ左ニ記ス

將棊ノ式

此遊具ハ一人ノ相手ニテ勝敗ヲ争ヒ雌雄ヲ
 決シ是ヲ以テ相慰ム物ナリ其法先一面ノ木
 板ニ九々八十一ノ目ヲ分ケテ四十箇ノ駒ヲ
 兩方ヘ分ケ一方毎ニ二十箇ノ駒ヲ並置スル

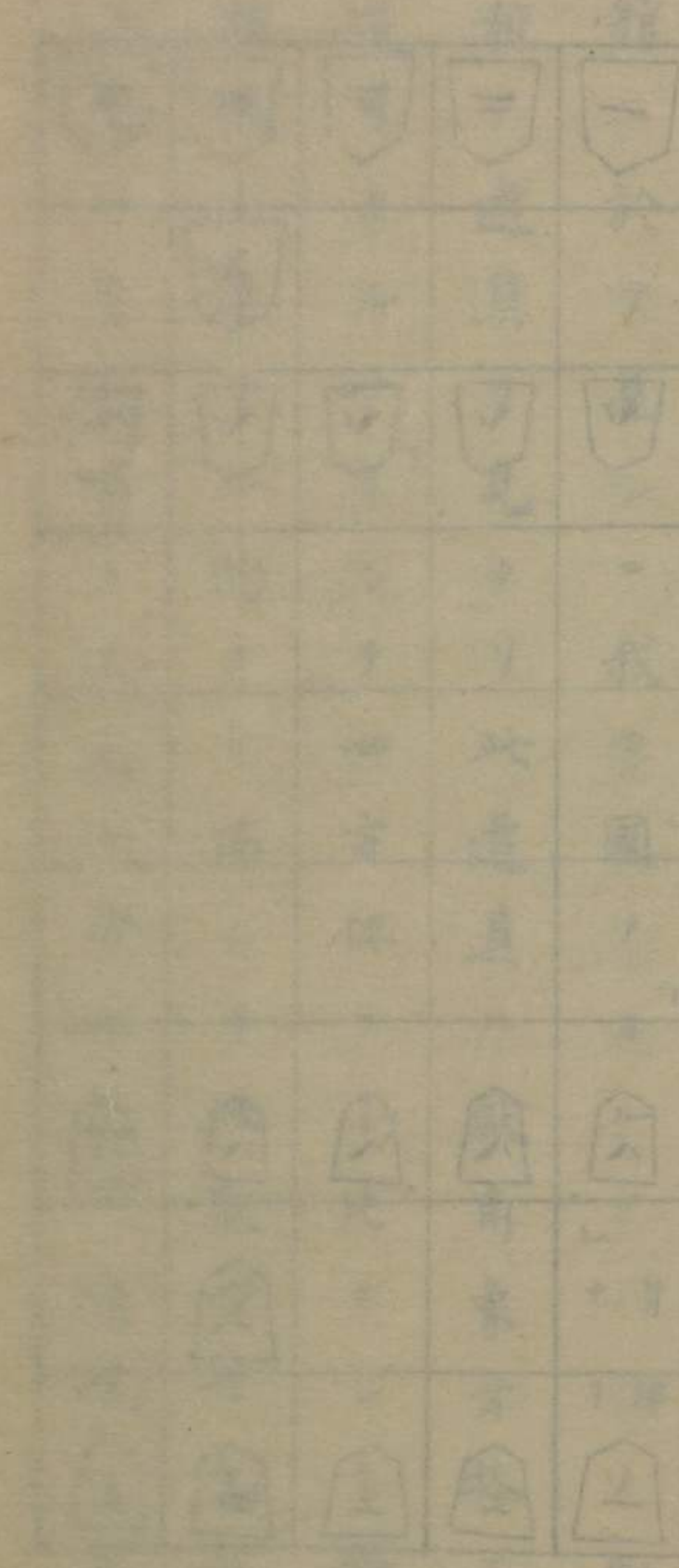
ナリ又駒ノ色ハ皆一樣ナレトモ其大小ハ一
 様ナス駒ノ上部ハ皆尖リテ其表裏ニ其名ヲ
 記セリ斯クテ二人兩方ヨリ其駒ヲ前メテ敵
 方ノ駒ト取合ヒ其ヨリ敵方ノ王將ヲ攻メコ
 レヲシテ其行処ナキニ至ラシムルヲ以テ味
 方ノ勝トスルナリ
 駒ノ名及ヒ其陣列ノ法式ヲ左ニ記ス
 一 銀即チ附ケテマ飛馬キヨシヤ香車
 一 家老ナリケリキンシヨリ家老ナリギンシヨ
 一 飛車カクコリ角行ホヘ士卒扱兩人各其

駒ヲ使ヒテ敵方ノ駒ヲ取ルヲ獲ル時ハ其敵
方ノ駒ヲ味方ノ駒ニナシ再ヒ盤上ニ出シテ
コレヲ用ユルナリ又此駒コトニ各其威勢用
法アリコレヲ左ニ論スヘシ先王將ハ其坐ヨ
リシテ他ノ坐ニ行ク莫自由ニシテ其隣坐ハ
方何レニテモ移行スル莫ヲ得ルナリ又金將
ハ唯其後面ノ二方ニ斜行スル莫ハスト其
トモ其余ハ皆王將ニ同シ此二將ハ敵地ニ入
ルトモ敢テ其駒ヲ轉シテ其裏ヲアラハス莫
ナシト雖トモ此余ノ駒ハ皆敵地ニ入ル時ハ

其表裏ヲ轉シテ以テ其威勢ヲ増ス扱又銀將
ハ左右ノ横行ナラヒニ其後面ノ直行ト都合
三方ノ移行ハナラサレトモ其余ハ王將ニ同
シ而シテ銀將敵地ニ入りテ其駒ヲ轉スル時
ハギンナリキントナリテ其威勢金將ト位ヲ
同フスルナリ又桂馬ハ二目ヲ越シテ斜ニ動
キ盤中ヲ行ク莫四度ヨリ少ク動クノ道ナシ
然レトモ又敵地ニ入りテ其表裏ヲ轉スル時
ハゲイマナリキントナリテ金將ト同シキ威
勢ヲ持ツ又香車ノ行道ハ唯其前ニ進ムノ一

方ナレトモ其前ニ進ムニ目ヲ越エル莫ク少
 ヲ扱ハス且又敵地ニ入ル時ハキヨリナリキ
 ニトナリテ其威亦金将ニ等シ又飛車ハ縦横
 ニ行ク莫強クシテ其上又敵地ニ入ル時ハ其
 約ヲ轉シテリヨリトナリテ其威王将ニ
 同シ又角将ハ斜ニ行ク莫自由ニシテ敵地ニ
 入ル時ハ其約ヲ轉シテリエトナリテ其
 威又王将ニ同シ又フハ一步ヲ前ニ進ム者ナ
 リ然レトモ是モ敵地ニ入ル時ハフナリキン
 トナリテ金将ノ威ヲ振フ允敵ノ駒ヲ取ル時

ハコレヲ我カ駒トナシテ再々用ユルト虫ト
 モ斯カル時ハ則チ一手ヲ休ム又フヲ用ユル
 ノ法ハ一線ノ道ニ其二フヲ連ヌル莫能ハス
 又駒ヲ使フニハ桂馬ノ外ハ他ノ駒ヲ越シテ
 其前ニ進ム莫能ハストス



五	四	三	二	一	二	三	四	五
	六						七	
八	八	八	八	八	八	八	八	八
八	八	八	八	八	八	八	八	八
	七						六	
五	四	三	二	一	二	三	四	五

盤中一段目ノ一ハ王將二ハ金將三ハ銀將四ハ桂馬五ハ香車六ハ飛車七ハ角行八ハ歩兵ナリ而シテ四ノ如ク其駒ヲ兩方ニ並ヘテ其勝負ヲ争フナリ

扱又日本ニハ此將棊ノ外ニ遊具數品アリ我等箱館ニ於テ見シニ我カ國ノカルツ骨牌ノ如キ一種ノ遊具ヲ見タリ此遊具ハ獸角象牙杯ヲ以テ造リタル一インチ四方位ニ小片ニシテ堅長ク横狭ク平ナル物ナリ而シテ此數四十九枚アリテ之ヲ青紅白ノ三色ニ分チ之ニ線或ハ点ナ

トヲ画カキ我カ骨牌ノ如ク金錢ヲ賭ケテ遊フ
物ナリ又此外ハ^レス^レハンビエル^レグ^レ名地^レ遊ニテ
下賤ノ者共ノ遊戯ニ用エル^レトト云ヘル遊具
ニ等シキ物アリ是ハ黑白ノ石ヲ以テ勝負ヲ争
フ遊具ナリ此外ニモ遊具數種アリト雖トモコ
レヲ畧ス

彼理日本紀行卷之二十三終

